一筆啓上
作左通信
第七十八号　平成二十八年七月一日（金）発行

丸岡城と日本一短い手紙の館を訪ねて

去る六月十一日（土）これ以上無い晴天の中、四十三名の参加者を集め、恒例の研修旅行に参りました。

今回は、お仙こと本多成重が六代目城主として過ごした丸岡城と、そこから徒歩数分の場所に昨年八月オープンした「一筆啓上　日本一短い手紙の館」を訪問するという、まさに作左の会に打って付けの研修旅行になりました。

丸岡城は現存する天守閣としては最古の建築様式を持ち、天守内の階段は補助縄を使ってようやく登れる急な造りでしたが、多くの方が最上階まで上がり、そこから見える丸岡の景色を堪能していました。

日本一短い手紙の館は、丸岡城と合わせた造りとなっており、総工費三億六千万円のうち周りの石垣には滋賀県の穴太衆（あのうしゅう）を使って二千万円をかける凝りよう。

ここには二十四年間で応募のあった百二十八万通の手紙すべてが保存されている収蔵庫はじめ、これまでの入賞作品が滝のように流れる展示室、丸岡城が望める展望室、多目的ホールなどが機能的に配されており、大変素晴らしい施設でうらやましい限り。

武曽館長と兵藤会長

館長の武曽さんからは、坂井市になってから疎遠になっていた「作左の会」との交流をまた活発化していきたい、とのお話をいただき、兵藤会長とお互いの出版物の交換等を行いました。

日本一短い手紙の館での記念撮影

帰りは、敦賀の日本海さかな街で、沢山のお土産も買われ、参加者一同、思いで深い研修旅行となりました。